

『藤農便り』 第 2 号

農業生産法人 藤野倶楽部 宮本 透（自然文化誌研究会 監事）

藤野倶楽部は 2012 年に農業生産法人として設立された新しい会社で、事業は農園レストラン「百笑の台所」・レンタルスペース「無形の家」等、多岐に渡ります。農業は主に佐野川地区の茶畑、名倉地区の会員制体験農園「安心農園」で行っていますが、今回は刺激的で楽しい仕事をいくつかご紹介しましょう。

・藤野里山茶 神奈川県西部の箱根・丹沢山麓で生産される足柄茶は、山間地の短い日照時間と朝霧が渋味成分のタンニンを少なくし、甘味と渋味のバランスがとれた香りのよい茶として人気のある全国ブランドです。

私は学生時代から茶に縁がありました。学大のある小金井や府中・国分寺は狭山茶産地の南端で、農場実習で木俣さんから茶摘みや手もみ茶作りを教わりました。以前勤務した吉田島農林高校は足柄茶の産地で、JA かながわ西湘の協力で園芸科学科 3 年生の授業に茶摘み実習があり、私は長らくこの授業を担当しました。また吉農生だった平田君が学大に就職してからは、ずっと INCH 伝統行事「野草の天ぷらとお茶摘みの会」の講師をしています。昨年 9 月、手もみ茶をしっかりと勉強するため秦野市公民館の「手もみ茶作り体験教室」に参加しました。講師は中央農業高校の卒業生、10 年前彼が生徒の時「静岡の農業大学校に進学してお茶作りを勉強し、将来は家を継いで茶専業農家になる」と夢を語った意見発表を思い出しました。品評会に入賞したと紹介され、高校卒業以来茶栽培を一途に極める姿に刺激を受けました。藤野倶楽部で茶栽培を担当することになり、彼に追いつけるような仕事をしたいと思っています。

佐野川地区では、急斜面でのきつい作業や生産者の高齢化などで耕作放棄される茶畑が増えています。藤野倶楽部はそのような茶畑を借り受け、無農薬の茶生産に取り組んでいます。猪に根元を掘られ、除草が追いつかず地主さんに迷惑をかけたり等苦勞が多いのですが、おいしいお茶作りにも励んでおりますので応援してください。

・百笑マルシェ 安心農園は、耕作放棄され遷移で森にかえていた土地を開墾し、再び農地に蘇らせて今年で 4 年目、完全無農薬・有機栽培で、コクのあるおいしい野菜を生産しています。6 月のある日収穫した野菜の販路を考えていた時、お百姓クラブの石山さんや末村さんがまとめた「相模湖・藤野地産地消アンケート」が送られてきました。桑原社長とミーティングで読み合わせたのですが藤野倶楽部の方針と重なる声が多く、特に「地元の野菜が『まつば』で買えたら便利だな」という意見に引かれました。「まつば」とは藤野唯一のスーパーマーケットです。翌日社長は「営業に行ってくる」と出かけ、戻ってくると「まつばに『百笑マルシェ』のコーナーを設けてもらった。25 日から藤野倶楽部の野菜を販売するのでみんなで準備をするように！」というのです。社長の機敏な行動力と大胆な決断力にはいつも驚かされます。

社員総出で百笑マルシェを設置してはや 2 ヶ月、安心農園の新鮮な野菜を地域の皆様に提供しています。「おいしかったよ！」と声を掛けていただくことも多く、消費者と顔の見える関係の大切さを痛感します。まだまだ小さな百笑マルシェですが、四季折々旬の野菜をたくさんの方に味わっていただけるよう努力します。

・WWOOF 1991 年にイギリスで始まった WWOOF は現在世界 50 カ国以上に事務局が設置され、ホストの有機農家は「一日三食、宿泊場所」、ウーファーは「力」を提供して交流を深めるそうです。6 月 28 日、桑原社長を訪ねてきたタイ人の若い女性オームさんはウーファー 1 号として、至福の一週間をもたらしてくれました。

お客様の対応で忙しい日曜日の午後、観光ガイド本を手にした彼女に英語で話しかけられたのですが全く理解できず、とにかく社長のところに案内しました。何事もなく一日の仕事を終えようとした時、社長から「ウーファーが来るので、宿泊先の芸術の家に明朝迎えに行くように」と言われたのです。

翌朝彼女を連れて出社すると、社長は「1 週間宿泊し、農作業を手伝ってくれるから面倒を見るように。これから本社に行くので後はよろしく」というのです。自慢ではありませんが、中学生の時から語学が嫌いで、入試で苦勞し、大学でも一般教養の英語やドイツ語の単位が取れなくて留年しました。27 才の時「1 年生と一緒に授業に出るのは苦痛なのですが」と語学の教授に相談に行くと「もう授業に出なくていいから。その代わり評価は C ですよ」と文字通り単位をいただいて卒業したのです。それ以来 30 年間外国語に接することなく生きてきた私が、日本語をしゃべらない外国人と通訳無しで一緒に過ごすなんてまさに青天の霹靂です。

緊張しながら二人で農園に行き、身振り手振りで作業を説明し「百笑マルシェ」に出荷する野菜を収穫しましたが、野菜を袋に詰めて、棚に並べたときにはすっかり打ち解けました。彼女は 26 才で私の娘と同世代、今では年に数回しか会わない娘との生活を思い出すような至福の 1 週間でした。彼女の持っていたタイ語の観光ガイド本は京都と藤野を案内したもので、本作りにかかわった観光協会の職員は彼女の話聞いて感激していました。

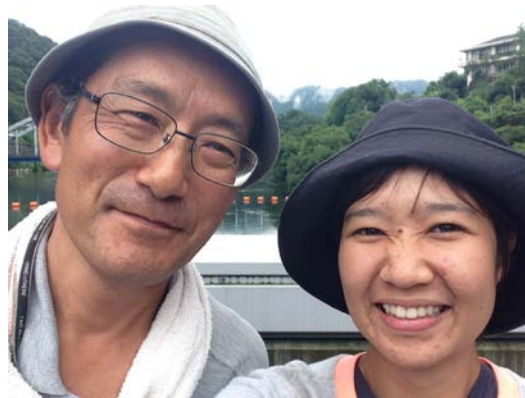
彼女が去った後、さっそく WWOOF ジャパンにホスト登録の申請を行いました。藤野倶楽部を訪ねてくれる

新たなウーファーとの出会いが楽しみです。

藤野倶楽部は今年から INCH 賛助会員になりました。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください。



← 相模湖で至福のひととき
百笑マルシェにて →



『植物と人々の博物館』 vol.17

① 道の駅こすげ で展示「雑穀街道」

アフリカから、遠く極東の日本にまで伝わった、縄文時代からの歴史をもつ雑穀が多く維持されている村々。これこそ後世に伝えるべき文化遺産です。ドイツの諸街道のように「雑穀街道」でつなげましょう。

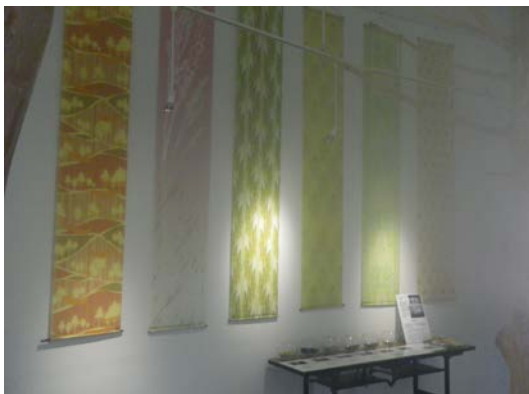
日時：9月1日～10月31日

※入場無料、道の駅にて自由に見学できます。

内容：雑穀をモチーフにしたテキスタイル、種子とその解説、古守豊甫医師と長寿村柵原調査、雑穀街道の現代史「関東山地調査からエコミュージアム日本村まで」など。

目標：

- ローカル・シードバンク、雑穀街道で雑穀のむら連合 *milletrust* をつなぐ。
- ホームガーデンで雑穀・野菜栽培を維持し、郷土食を伝承し、また、新しい料理を商品開発する。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、自給農耕、地域経済をつくる。



② 民族植物学ゼミ第1回

伝統知を学び合うことで、トランジションの「素のままの美しい暮らし」(*Sobibo*)を勧める。

参加希望者は木俣にメールください。kimatami@u-gakugei.ac.jp

1) 民族植物学ゼミ第1回

日時：9月19日(日)午後1時から午後3時。

場所：小金井市の東小金井マロンホール。

内容：読書会、内村鑑三著『地人論』、岩波文庫、660円。

担当者：松浦さん

参加費：300円

2) 扶桑くにゼミ第2回

日時：9月19日(日)午後3時から午後5時。

場所：小金井市の東小金井マロンホール。

内容：読書会、トルストイ著『神の国は汝等の衷にあり』は入手困難。

かわりに、藤沼貴著『トルストイ・クロニクル、生涯と活動』、東洋書店、600円。

担当者：木俣

参加費：300円（複写代、会場費など）

お気軽にご相談ください！！

「小菅村の動き」vol.17はお休みです。